

- 1 拙稿「スポーツ振興法の改正によるスポーツ行政をめぐる『分権』の課題」(『アマチュアスポーツをめぐる法律問題』日本スポーツ法学会年報第9号、トスエンタープライズ、2002年12月)129~138頁。 [042-580-1351](http://www.sportlaw.or.jp/)(日本スポーツ法学会)

「分権委によるスポーツ行政に関わる勧告は、体育指導委員とスポーツ振興審議会をめぐる必置規制の緩和においてはスポーツ振興法の改正をもたらし、社会体育施設整備費における一般財源化と補助対象の重点化の点では財政措置の変更をもたらした。スポーツ振興法の制定以来、この法律の欠陥が数多く指摘されながらも、実際の改正には至らなかったことを想起すれば、分権という視点からの国のスポーツ行政の従来のあるあり方に風穴を開けた意義は大きい。さらに、あたかもこうした流れと連動するかのような総合型地域スポーツクラブを基軸とした国のスポーツ行政の修正は、これを実施段階に移した場合の課題の山積はあるものの、まさに住民主導による分権型社会の契機を具体的に提供したものとなっている。しかし同時に、こうした政策の転換そのものが行政により主導されている側面は否定できない。すなわち、総合型地域スポーツクラブ事業そのものが文部科学省の地方自治体や地域社会に対する誘導戦略として進められ、運営をめぐるマニュアル作成や設置に至る過程の中身など、上意下達式に手取り足取りでなされる。要するに分権型社会におけるスポーツ行政が集権的に誘導されるという図式である。このことは単に国と地方との関係のみならず、地方間、地域社会間でのクラブ運営をめぐる横並び意識から発する政策の水平的画一性をもたらし、ひいてはまさに金太郎飴的なクラブ運営が全国津々浦々に浸透するような状況を生み出すかもしれない」

- 2 拙稿「オーストラリア州・地方政府におけるガバナンスの諸相と政策ネットワークの形成 スポーツ振興戦略と地域スポーツクラブ運営の事例から」(『季刊行政管理研究』98号、2002年6月) 56~70頁。 [\(財\)行政管理研究センターTel:03-3981-0441](http://www.iamr.or.jp/)

「要するにクラブを存続させていくことは、保険、施設のメンテナンス、会員確保、食事・酒類の提供、試合等スケジュールの設定、コーチの確保、スポンサーの獲得、クラブの広報、補助金の獲得申請作業や市への支援要請、野球クラブなどの場合のグラウンド利用をめぐる他種目との競合の調整、インターネットのウェブサイトの開設、保険料問題への対応、財政の健全性維持のための努力、会費値上げのための調整、親の加熱への対応など、まさに多方面に気を配らなければならず、根気と忍耐と地道な取り組みが要求され、こうしたクラブマネジメントの土台がボランティア活動によって支えられているのである」

- 3 拙稿「ナショナリズムとメガ・イベント 2002年W杯における商業セクターの戦略と社会現象に注目して」(『現代スポーツ評論 メガ・イベントの思惑』7号、2002年11月)8~22頁。 [創文企画 Tel: 03-3295-4466](http://www.creative.com/)

ナショナリズムの多義性

ナショナリズムとグローバルゼーション

スポーツイベントとビジネス

FIFAの変質とメガ・イベント

政府戦略、メガ・イベント、ナショナル・アイデンティティ

2002年W杯と商業消費型ナショナリズム

メディアによる2002年W杯大会をめぐる報道の特質

日本と韓国における商業消費型ナショナリズムの差異

スポーツ文化ナショナリズムとメガ・イベント

「本稿では、サッカーの2002年ワールドカップ日韓共催大会(2002年W杯)を素材に、前半では本テーマ考察の視点としてヒントとなるような先行研究を整理した上で、後半で大会を支えた諸アクターの戦略やこのメガ・イベントがもたらしたところの社会的諸現象、大会をめぐる新聞報道から読み取れる特質について、検討していくこととする」

「テレビ放映権料(1,000億円以上)やスポンサー料(400億円以上)の収入によって、巨額な財産を抱え運用するようになったFIFAこそが、2002年W杯運営の中心であり、このメガ・イベントの中心アクターであることは一見、明白である。しかし、日本組織委員会(JAWOC)が振り回されたチケット問題(印刷・発送の遅れや空席をめぐる問題)や会長選直前のFIFA内部紛争の露出から透けてみえるのは、果たしてこの組織が、観客300万人、テレビ視聴者延べ360億人といわれるメガ・イベントをコントロールする力量、巨額な財源を取り扱う能力を本当に備えているのかという疑問である。そして、FIFAの組織としての未成熟さは、JAWOCや韓国組織委員会(KWOC)、さらには開催地の地方自治体や支部との間での意見調整の遅れといった問題をも引き起こした。W杯におけるコマージュリズムが頂点に達した感のある2002年大会の中心アクターには、メディア資本や広告代理店を含めたスポンサー企業が位置する。こうした商業セクターがFIFAと「運命共同体」を形成し、この運命共同体と政府(開催地自治体を含む)とが同調しつつ足並みを揃えて大会の成功に向けて突き進んだのである。FIFAと商業セクター、これに加わった政府という複合主体による強力なサービス提供と比べれば、草の根的なボランティア組織が果たした役割は周縁的なものにすぎない。複合主体によって練り上げられたW杯という魅力的なソフト・ハード両面の「商品」の売買が、日本と韓国という国家市場を拠点にして展開されたともいえる。そして、この商品は両国において歓呼で迎えられ(複合主体側からすれば歓呼で迎えられるようにしなければならず)その相乗効果がある種のナショナリズム、すなわち、「商業消費型ナショナリズム」(商業セクターによるサービスを消費する形で生じる国民行動)と呼び得るような雰囲気を入々の間に醸し出したのではないだろうか」

「こうした商業セクター・政府と人々との間の歪な誘導 受容関係、中心 周縁関係が変わるとすれば、スポーツという純粋に『楽しみ』を求める領域においても、その受容者は懐疑的・批判的な視点を持ちつつ、たとえ考察のレベルでも何らかの形で2002年W杯が残した財産の運用と関わっていくことが不可欠であろう。具体的にはスタジアム運営、候補地も含めたキャンプ地における諸施設の利用、大会を契機に誕生したボランティアセクターや地域社会形成における日常的なスポーツ組織活動との関わりや多元的コミュニケーションの構築、といった諸課題に対する考察と活動の蓄積が試金石となるであろう。将来

中村祐司「ワールドカップの『遺産』をどう活用すればよいのか」(宇都宮大学大学院国際学研究科第4回サテライト公開授業「ワールドカップから1年 ワールドカップがもたらしたもの」) 会場: 彩の国8番館産学交流プラザ9号室 日時 2003年11月20日(木)18:00 20:45 授業メモ

のメガ・イベントにおいて、スポーツ文化ナショナリズムが生まれる契機はこの点にこそあるのかもしれない」

---

4] 拙稿「2002年サッカーワールドカップ大会開催自治体における諸アクター関係とボランティアセクターの登場」(『宇都宮大学国際学部研究論集』14号、2002年10月)35～50頁。

1. 問題の視覚
2. 大会開催に関わる諸アクターを取り巻く環境状況
3. 開催自治体の戦略と当該地域の諸アクター関係の課題
  - (1) 大分県における行政の積極性と地域関心の乖離
  - (2) 神戸市におけるスタジアム建設と「浜山地区まちづくり協議会」の動き
  - (3) 「大阪サポーターズクラブ」の立ち上げとボランティアセクターの課題
  - (4) 静岡県における草の根レベルの「サッカー文化」の蓄積と課題
  - (5) 札幌市における市場主導型ワールドカップ開催戦略
  - (6) 宮城県における行政-住民の協働の萌芽
  - (7) 埼玉県における独自戦略への模索
  - (8) 鹿島スタジアムを拠点とした茨城県の開催戦略
  - (9) 横浜市におけるボランティア運営をめぐる課題
  - (10) 栃木県におけるキャンプ候補地の取組みをめぐる諸課題
  - (11) 政府の取組みと政治対応に見られる地方自治体との温度差
  - (12) 韓国における開催準備の事例
4. 国内関係諸アクター間の政策ネットワークの特質

---

5] 拙稿「地方自治体におけるローカルガバナンスの諸相と関係諸アクター協働の課題 栃木県における総合型地域スポーツクラブの設立・運営を素材にして」(『宇都宮大学国際学部研究論集』16号、2003年10月)1～13頁。

はじめに

1. 自立型クラブが直面するリソース不足の問題
  - (1) サン・カルチャークラブの組織概要
  - (2) サン・カルチャークラブにおけるインタビュー内容
2. 栃木県によるクラブ創設の誘導戦略の特徴
  - (1) 栃木県スポーツ行政予算へのクラブ育成費の計上
  - (2) 栃木県教育委員会保健体育課におけるインタビュー内容
3. 宇都宮市におけるモデル地区創設の試みと行政課題
  - (1) 泉が丘地区をモデル地区に設定
  - (2) 宇都宮市教育委員会スポーツ振興課におけるインタビュー内容
4. クラブ運営成功のための諸条件

中村祐司「ワールドカップの『遺産』をどう活用すればよいのか」(宇都宮大学大学院国際学研究科第4回サテライト公開授業「ワールドカップから1年 ワールドカップがもたらしたもの」) 会場: 彩の国8番館産学交流プラザ9号室 日時 2003年11月20日(木)18:00 20:45 授業メモ

- (1) 富山県広域スポーツセンターの成功事例
  - (2) 成岩スポーツクラブの成功事例
5. 行政依存型クラブと部活・地域融合型クラブが直面する課題
- (1) 石橋町教育委員会生涯学習課におけるインタビュー内容 グリムの里スポーツクラブをめぐる運営課題
  - (2) 栃木市立吹上中学校におけるインタビュー内容 吹上スポーツ文化ネットの模索
6. コア組織の設定を模索する自治体の事例 足利市と大平町の取組み
- (1) 足利市教育委員会市民スポーツ課におけるインタビュー内容
  - (2) 大平町教育委員会生涯学習課におけるインタビュー内容
- おわりに

---

#### <関連のホームページ紹介>

中村祐司研究室

<http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/>

(上記研究室HPの「研究月誌」に)

「W杯サッカー日本開催地のうち、大分、神戸、大阪、静岡、札幌、宮城を現地調査！(2001年2月3日～2月18日)」

<http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/kenissi/kenissi0102.htm>

(同じく「研究月誌」に)

「韓国滞在(2000年8月17日～8月24日)」

<http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/kenkyu/Worldcup01.htm>

NPO法人「サン・カルチャークラブ」

<http://www2.ocn.ne.jp/~sunn/>

NPO法人「大阪サポーターズクラブ」

<http://www.osc.gr.jp/7index.html>

「スペシャルオリンピックス日本」

<http://www.specialolympics-nippon.gr.jp/>

中村祐司

〒321-8505

宇都宮市峰町 350 宇都宮大学国際学部

e-mail: yujin@cc.utsunomiya-u.ac.jp

028-649-5181 (研究室 TEL/FAX)